

2年間、ありがとうございました

36名の卒業生がこの寺家小学校を巣立ちました。6年間、本当に頑張ってくれたと思います。この小学校時代の経験は、彼ら、彼女らにとってどのような影響をこれからの人生に与えてくれるのか。見届けるのは難しいですが、教員として心から期待したいところです。

私の小学校時代。「今日帰ってから何をして遊ぼうか」と、本気で悩んでいました。「わくわくした放課後」と題してもよいくらい、友達と相談しながらワクワクして帰ったものです。まさに「仮面ライダーカード」真っ盛りの時代で、集めて友達とめんこのようにして遊んだり、ビー玉遊びをしたりと楽しかったことが思い出されます。決して昔を美化するつもりはありませんが、確かに放課後にたっぷり余裕がありました。塾や習い事をやっている友達はほんのわずかで、いつも子供が集まる公園や砂浜に行けば、わざわざ友達を呼びに行かなくても、きっと誰かがつまらなそうにふらふらしているのです。この歳になって思うのは、いくら難しい知識や技能を身に付けようとも、あの頃の体験がベースとなって、いつもそこに立ち返って、具体的な体験に照らして理解しようとする自分がいます。そして、その時の出来事はまるで昨日のここのように鮮明に記憶の中に残っているのです。毎日たっぷりであった放課後のワクワク体験は、大人になってからも宝物のように思っています。それをしたからといって、勉強にどのような影響を与えたか分かりませんが、最低限、物事に積極的に挑戦してみよう、人と関わることはおもしろいということは教えてもらったような気がします。卒業生のみならず、全ての在校生にとって、何でもいいので「ワクワクした小学校時代」が将来、蘇ってくることを期待していきたいと思います。

さて、私事ながら令和7年に還暦を迎えました。昭和63年に寺家小学校に新米教師として赴任し、寺家小学校の校長として、校長最後の年を過ごすことができました。寺家校区、東地区の地域の方々、保護者の皆様には、並々ならぬご理解とご協力をいただき、なんとか校長職を終えることができます。教え子が保護者となって「先生」と声をたくさんかけてくれました。すごく嬉しかったです。これぞ「教師冥利に尽きる」です。現在は、役職定年というシステムで、あと数年は一教師としてどこかでお世話になるつもりです。寺家小学校への感謝の気持ちを忘れず、過ごしてまいります。

2年間、いえ38年間本当にありがとうございました。 (校長 村杉 一也)